

国際開発セミナーシリーズ

国際機関で働くということ

—現場の経験から—

国際機関とはどういうところなのでしょう。
プロフェッショナルのお三方に聞いてみます！

日時：2014年11月7日（金）
13：30～16：30

場所：大阪大学豊中キャンパス ステューデント・コモンズ
（全学教育総合棟 2F セミナー室②）

慶長寿彰氏（世界銀行 シニア都市開発スペシャリスト）

（けいちょう・としあき）青森県八戸市生まれ。東京大学工学部都市工学科卒。東京大学大学院工学系都市工学専攻修士課程を経て1988年八戸市庁入庁。1992年八戸市庁を退職し、オクラホマ大学大学院に就学（公共政策・行政経営学修士を取得）。1994年にワシントンDCの世界銀行本部に入庁。八戸市庁都市開発部で地方都市の街づくりを実践した経験を活かして、世銀入庁後は主に南アジアと東欧の地方自治体の育成、都市環境対策、災害復興などを支援。2001年6月から1年間豪州ブリスベン市庁都市経営局に出向し、市の持続可能な都市経営戦略を担当。2002年世銀に復帰。2007年より2年間のスリランカ駐在中は津波復興と紛争地域の復興に従事。2012年1月から3月まで世銀から休暇を取り、福島大学災害復興研究所の客員研究員。2014年9月より世銀ルーマニア事務所に滞在し、ドナウ・デルタ地域の総合開発戦略作成に従事。今まで担当した主な国は、バングラデシュ、パキスタン、スリランカ、ブータン、タジキスタン、カザフスタン、マケドニア、アルバニア、ルーマニア等。

木村寿香氏（アジア開発銀行民間部門業務局インフラストラクチャーファイナンス東アジアヘッド）

（きむら・ひさか）一橋大学卒業後、ロンドン・ビジネススクールで金融、ロンドン大学インペリアルカレッジで環境経済学の修士をそれぞれ取得。ロンドンで Ernst & Young を経て、欧州復興開発銀行（EBRD）勤務。ロシア、ポーランド、アゼルバイジャン、トルクメニスタン等でエネルギー案件のプロジェクトの案件形成・実施管理を行った後、2006年にアジア開発銀行（ADB）に転籍、中国とモンゴルの民間インフラ案件へのファイナンスを担当。風力発電、省エネファイナンス、天然ガスパイプライン、地域暖房、都市ごみ発電、汚水の再生利用、農村の下水処理案件を通じて大気と水汚染問題解決に取り組む。最近では都市と農村のインフラ格差問題、および河川交通のエネルギー効率改善に注力している。北京駐在。

大谷順子氏（大阪大学大学院人間科学研究科准教授・大阪大学東アジアセンター長（上海オフィス））

（おおたに・じゅんこ）大阪大学歯学部卒、ハーバード大学大学院 公衆衛生学修士（MPH 国際保健学）・MS（人口学）、ロンドン大学熱帯衛生医学校（LSHTM）・ロンドン経済政治大学院（LSE）博士（PhD 社会政策学）。ハーバード国際エイズ政策センター、米国疾病予防管理センター（CDC）、結核予防会結核研究所国際協力部、世界銀行、世界保健機関（WHO）中国代表事務所（北京）およびジュネーブ本部勤務後、2005年4月帰国、九州大学助教授を経て、現職。主な著書に『国際保健政策からみた中国—政策実施の現場から』九州大学出版会、2007年。『人間の安全保障と中央アジア』（編）、花書院、2010年。『事例研究の革新的方法』九州大学出版会、2006年。『災害後の重生』（中文版）南天書局（台湾）2010年。『Older People in Natural Disasters』Kyoto University Press & Melbourne: Trans Pacific Press, 2010. 他、著書・論文多数。

お問い合わせ：川口 純（人間科学研究科グローバル人間学系）

kawaguchi@hus.osaka-u.ac.jp